記者発表資料

平成２６年１２月１５日
国土交通省青森河川国道事務所

岩木川の魚がすみやすい川づくり委員会を開催します

国土交通省青森河川国道事務所では、下記のとおり「第３回岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会」を開催します。

本委員会は、岩木川における魚類の生息環境の改善を図るため、瀬・淵および産卵床の再生等について、学識経験者や漁業関係者、関係行政機関による専門的な見地からの審議・助言をいただき、川本来の生態系の機能回復を目指していくために設立されたものです。

今回の委員会では、弘前市上水道取水堰周辺における遡上環境の改善策やアユの産卵床を含む瀬・淵の再生・保全対策について意見を伺います。

記

日　時 ： 平成 26 年 12 月 18 日（木）15：15～17：15

場　所 ： 青森河川国道事務所　２階　大会議室

内　容 ：（１）津軽ダムにおける土砂還元の取り組みについて
（２）弘前市上水道取水堰周辺における遡上環境の改善策について
（３）アユの産卵床を含む瀬・淵の再生・保全対策について

公開等 ：本委員会は、公開としております。

発表記者会 ： 青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８　　電話０１７－７３４－４５２１（代表）
副所長（河川）　　砂子　勉　（内線２０４）
工務第一課長　　工藤　忠行（内線３１１）

岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会

1. 委員名簿

氏　　名	所　　属	備　　考
東　信行	弘前大学農学生命科学部生物学科　准教授	
泉　完	弘前大学農学生命科学部地域環境工学科　教授	
蛯名　政仁	青森県産業技術センター内水面研究所　調査研究部長	
小野　堅治	岩木川漁業協同組合　代表理事組合長	
工藤　富市	弘前市上下水道部長	
南　將人	八戸工業高等専門学校建設環境工学科　教授	
石塚　宗司	東北地方整備局　青森河川国道事務所長	
山谷　博志	東北地方整備局　津軽ダム工事事務所長	

【参考】「岩木川魚がすみやすい川づくり」の課題と必要性

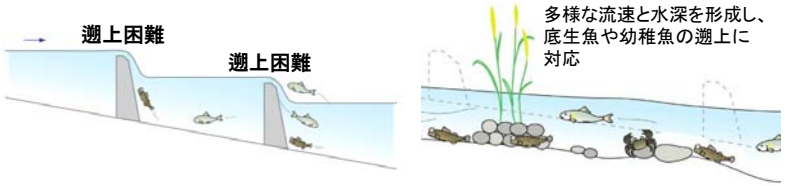
■かつての岩木川は、上流域までアユが遡上し、礫河原や瀬淵が形成された、礫河床がアユの産卵床となっていた。
■昭和42年に芦野堰が完成、これに伴い整備された魚道は、遊泳力の弱い魚種が遡上しにくい階段式魚道であり、**自然営力で多様な魚種が遡上可能となる様に、緩勾配式魚道の新設**を行った。【平成22年度完成】
■昭和59年に整備された弘前市上水取水堰は、左岸に魚道が設置されているが、**下流砂州の拡大や魚道入口の落差などにより、流路から既設魚道への連続性が失われている**。
■近年になり、産卵床や瀬淵の消滅が確認された区間の河道は、かつて瀬となる中州が形成されていたが、**現在は交互砂州が発達、樹林化が進行して、流路が狭まり流速が速くなることで河床洗掘が発生し、瀬と淵が消滅**している。

魚類環境の課題



①芦野堰魚道の改良【平成22年度完成】





②弘前市上水取水堰周辺の遡上環境の改善



③瀬・淵の保全・復元（アユの産卵床含む）

